

## そばに置きたい



## 自作の薪窯 力生む



モスグリーンと少し黄みがかった白が美しいボウルです。彩り豊かなサラダを盛りつけると映えそうです。

作っているのは島根県の陶工、永見克久さん。民芸運動に携わった英国人バーナード・リーチと親交のあった、山陰を代表する陶芸家、船木研児さんの元で修業を積みましました。

グリーンは、同県浜田市でとれる鉄分の多い陶土に灰釉をかけ、酸素供給が少ない窯で焼くことによってあらわれます。形は船木さんの窯で作られていたものを基本に、もやい工藝のオーナーだった故久野恵一が、縁の部分を少し厚く平らにしてややめりはり

永見克久さんのボウル 高さ8センチ、幅19センチ。1個4200円(税抜き)。問い合わせは福岡県朝倉市の工芸店「秋月」(電話0946・25・1270、火曜定休)へ。

外山亮一撮影

を出すように注文しました。ボウルの外側に滑り止め用に施した線彫りがアクセントになっています。

洋食器を中心にシンプルで使いやすい雑器を作る永見さんは、自作した薪の単窯で焼いています。薪窯は焼きムラが出やすく温度調節が難しいのですが、「物に力が出る」とこだわりの続けています。薪に使う木々の伐採も陶土の採掘も自分で行います。経済的には決して楽ではありませんが、「同じような仕事をした」という若い人が現れたら、自分の信念を貫いてほしいと言いたい」と話します。

堀沢三香 神奈川県鎌倉市の民芸品店「もやい工藝」スタッフ。「手仕事フォーラム」前代表で当欄に執筆していた久野恵一さん(故人)とともに全国の手仕事の現場を訪れてきた。